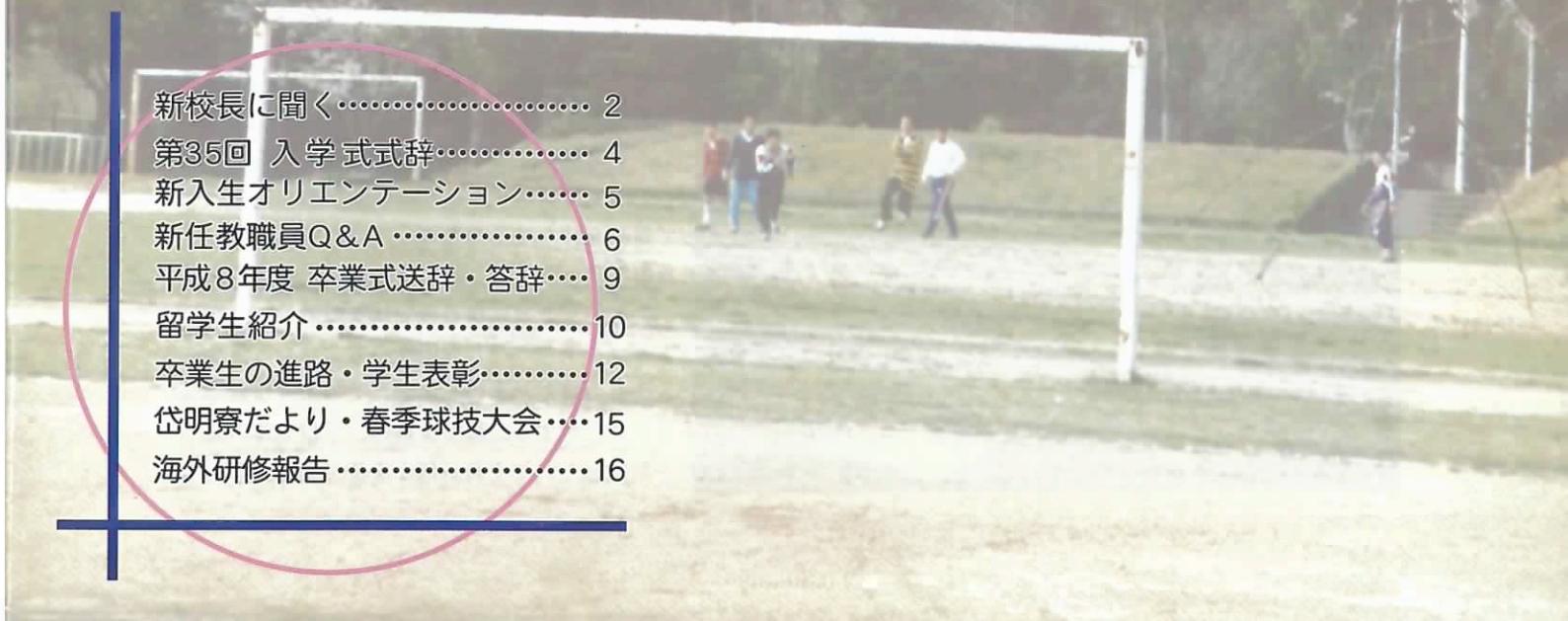


有明高尙だより

第92号
1997.6



新校長に聞く.....	2
第35回 入学式式辞.....	4
新入生オリエンテーション.....	5
新任教職員Q&A	6
平成8年度 卒業式送辞・答辞.....	9
留学生紹介.....	10
卒業生の進路・学生表彰.....	12
岱明寮だより・春季球技大会.....	15
海外研修報告	16





新校長に聞く

高松康生校長が3月31日付けで退官され、山藤馨校長が新しく着任された。そこで、編集部を代表して瀬戸洋と松岡高弘が校長室を訪ね、インタビューを行った。

聞き手 着任されてまだ1月足らずですが、有明高専の印象はいかがでしょう。

校長 環境を含めて思ったよりいいところで、来てよかったです。第一印象です。ただ、現在はすべての高専で改革が進行中なので、ここも活気に満ちていると思ってきましたが、思ったより静かな雰囲気で、ちょっと意外でした。本当は積極的に、まだ来たばかりでそのあたりがみえないのかもしれません。

聞き手 いま言われたように教育制度は変革期にあります、これからは高専はどうあるべきだとお考えですか。

校長 これからの高専がどうあるべきかについての全国的合意はまだ得られていないと思います。しかし、現在は多様化の時代、個性化の時代と言われます。それに対応して、高等教育機関も多様化・個性化を画るべきでしょう。有明高専がどう個性化を画すべきかは皆さんと一緒に考えていきたいと思っていますが、工業高専一般について言えば今より高度な技術者を養成することが求められていると思います。大学でも最近は大学院を出てから就職する学生が非常に増えました。学部は基礎知識を、大学院は専門知識と共に処理能力を身につけるところですが、企業が採用する学生に単なる基礎知識以上のものを求めるようになってきたからだと思います。大学生が学部卒で就職するのなら高専卒との差は2年ですが、修士卒がどんどん増えてくればその差は4年になります。社会の高度化の流れに対応するために専攻科は必要ではないかと思います。高専にとっていま計画している専攻科が最善であるかどうかは別にして、専攻科がないことによって、いい学生が来なくなるというような種々の不利益が生じる面も見過ごせないのではないでしょうか。

聞き手 これまで高専は中堅技術者の養成を目指してきたのですが、そのあたりとの兼ね合いはどうなるのでしょうか。

校長 社会は変動しています。特に最近の変化は目をみはるものがあります。そんな中にあって、高専だけが変わらなければ、社会の変化に取り残されてだんだんその存立意識をなくしていくと思います。存立しうるようになっていくことで、高専のidentityが保たれるのではと考えています。創立当時からの「中堅技術者養成」という立場に安住するのではなく、ますま

す高度化し多様化を深めていく社会に対応できるように「高度な職業技術者」の養成を目指すべく変革していくべきだと思います。

聞き手 高専の教育システムは高度な技術者の養成を目指すのにも適しているのでしょうか。

校長 最近の学生は自分で考える習慣がない、よく言われます。大学でも学部のときは知識吸収がやつとて、自分で考える習慣がつくのは大学院に入ってからです。これでは遅すぎると思います。ところが、現在の大学の入学試験では広範囲にわたって大量の問題が出題される傾向が強く、それを突破するにはゆっくり考えたりしたら駄目で、まさにマシンのように記憶をたよりに片っ端からかたずけていく必要があります。つまり、現在の高校教育では、入試問題を解くための技術を習得することに時間をとられすぎて、いろいろな疑問に対して自分で考えてみる時間があまりないという欠点があるのではないかでしょうか。

高校生が15歳から18歳という一番の伸び盛りの貴重な時期にそのような決して創造的とは言えない受験勉強に従事しているあいだに、高専生は受験というプレッシャーを感じることなく、教養と共に、工学の基礎をも考えながら実践的にじっくり勉強できるチャンスがあるわけです。このような一貫教育の特徴を生かしていけば、高専の5年間で、さらには専攻科を含めた7年間があればなおさら自分で十分に考えることできる高度な技術者を育てることができると考えています。現在の日本の教育システムはアメリカスタイルが主流ですが、アメリカスタイルが最善であるかどうかはまた別で、6・3・3制だけに頼るのではなくて高専のような教育システムをも並列させることができます。この多様化・個性化の時代にあっては特に大切になって行くと思います。

聞き手 そのような方向を目指す高専において、教育をするうえで大切なことは何でしょうか。

校長 やる気を起こさせることだと思います。やる気を起こさせるには興味をもたせる必要があります。どうやって興味を持たせるかという、いわゆる動機付けが最も重要なポイントだと思いますが、それは各高専の創意工夫ということになるのではないでしょうか。ロボット・コンテストなども興味をもたせやる気を起こさせる格好の場だと思いますが、そのような動機付けのチャンスに対する、教室全体の、学校全体の盛り上がりを期待したいですね。何かを皆で力を合わせて

やりとげることは、これから教育の改革をみんなで進めていくというエネルギーにも通ずるのではないかでしょうか。

聞き手 ご専門は何ですか。

校長 超伝導工学です。エネルギー問題の半永久的解決につながる核融合にも超伝導磁石が絶対必要とされていますが、それだけでなく、経済摩擦にも強い21世紀の先端科学技術の一つだということでがんばって研究を行っています。もう一つは、生体工学です。皆さんに親しみ深い話題としては、味を測るセンサーを世界で初めて開発しました。そういうえば、酸っぱいとか甘いとかの味を感じる味細胞は、すでにお母さんのお腹の中にいるとき、全てでき上がっていると言われています。あとは、生きている間にだんだん死んでいくだけです。脳細胞のほうは20歳くらいまで増えて、その後は増えずに死んでいくだけだと言われていますけれどね。だから、脳の成長期にある学生諸君が、たばこや酒を飲まないのがいいというのは、科学的根拠があるわけです。ところで、味細胞がだんだん死んでいく最後に残る味覚は何だと思いますか。

聞き手 わかりません。

校長 それは甘みです。お年寄りは甘みだけしか強く感じることができないのです。あの味覚はほとんど死んで弱くなってしまっているのです。ですから、お年寄りの楽しみは、おいしいお茶をいれて和菓子を食べるということになるのです。和菓子屋さんのお店が大きく立派なのが多いわけですね。

聞き手 これまでの人生において、印象的なターニングポイントはいつだとお感じですか。

校長 九州大学の大学院を出るにあたり、いろいろなところからのお誘いがあったなかで、入江先生は「私の講座に来てくれれば研究テーマは君と相談して決める」とおっしゃってくれました。私はその言葉に飛びついで入江研究室に入り、二人で相談して超伝導工学を始めたわけです。じつは、超伝導と私はいろんな因縁がありまして、1911年に超伝導が発見されたのですが、その年に九州大学の工学部が発足しています。私が生まれた1933年にマイスターが超伝導の本質を探り当て、私が大学院を出た年に超伝導の微視的機構理論が提出されたのです。そういうことで、今でも情熱をもって研究できるテーマである超伝導工学に出会えたのは幸せであったと思っています。

聞き手 モットーをお聞かせください。

校長 モットーとは言えないと思いますが、

九州大学を退官した際に、記念にテレホンカードを作り、筆で「前を...」と書いた

て印刷してもらいました。明治大学のラグビー部の北島前監督は「前に！」という言葉が好きだったそうですが、「前に！」という言葉は、みんなのそあるべく努力しようというキャッチフレーズ的な意味合いが強いように思います。「前を...」というのは、できてしまつたことをくよくよ後悔しても始まらない、「前ののみを」向いて最善の努力をしようという、自分に対する戒め、努力目標みたいなものです。

聞き手 昔、「上を向いて歩こう」という歌がはやりましたが、あの、「上を」に通じる「前を」ですね。ところで、ご趣味は何ですか。

校長 いろいろやりましたが、今でもやっているのは山登りでしょうか。甘みの話ではありませんが、いろいろやった末に山登りだけが生き残ったという感じです。

聞き手 学生に一言お願いします。

校長 希望と夢を失なわず、何事にも、positive志向で取り組み、人生を生き生きと送れるような人になつて欲しいと思います。

聞き手 校長先生のほうからみなさんに對して何かございませんか。

校長 現在、高松前校長のお考えをひきつぎ、3つのことを最優先に進めたいと考えています。教育環境の整備、専攻科の設置、産学協力です。どれも大切ですが、特に産学協力については、有明高専はこの大牟田・荒尾地区の最高学府でもあり、地域の発展のためにはたくさがりがなくしてはとても達成できないですし、みなさんの有明高専を愛する気持ちから出発して、どう進めるべきかをみなさんで十分に議論して頂きたいと心から希望しています。よろしくお願いしたいと思います。

聞き手 本日はありがとうございました。



第35回 入学式式辞

有明工業高等専門学校長 山 藤 馨

新入生の皆さん、編入生の皆さん、入学おめでとうございます。この春の良き日に、ご来賓の方々並びに保護者の皆様のご列席を得て、有明工業高等専門学校の第35回の入学式を挙行し、202名の新入生と8名の編入生の皆さんを本校に新たにお迎えすることは、教職員並びに在学生一同の心から喜びとするところであります。保護者の皆様におかれましても、お子様たゆまぬ努力が実を結んで、本日ここに本校に入学されますことは、日頃のご丹精の賜であり、心からお祝い申し上げます。

皆さんが入学された有明工業高等専門学校は、その名が示すとおり、高等教育機関であります。したがって、本校に入学された新入生の皆さんは、本日からは今までのやうな義務教育ではなく、高等教育を受けることになります。つまり、国が必要と認めた教育を義務として受けさせられる「生徒」ではなく自分の意志で学問を学ぶ「学生」になるのです。皆さんがまわりの方々の意見を参考にしながらも、自分の意志で本校を志望し入学されたという事実が、既にそのことを物語っています。そして皆さんは、本日から5年間にわたり、今から学ぶ工学的な学問を生かして、皆さん一人一人の人生を生き抜いていくためのトレーニングを、私たち教職員や上級生の人たちと一緒に行っていくことになります。

皆さんが卒業されるまでには、21世紀が始まります。今、皆さんの身のまわりの社会を含め、日本が世界が、大きく変わりつつあるのです。インターネットなどの情報を伝え合う手段が発達して世界は実質的にどんどん狭くなり、世界中の人たちが、政治的にも、経済的にも、環境面でも、お互いに強く影響しあいながら生きていく時代になるでしょう。世界の人口がどんどん増えて、今までは食料やエネルギーの消費が生産を上回るようになり、私たちの身の回りにも深刻な影響をもたらすことが予測されます。

そのような事態を克服して、私たちを含め世界中の人々が豊かに暮らしていくには、まず、地球環境や身の回りの生活環境を壊さないような科学技術の一層の発達が求められます。そして皆さんが工業技術者として卒業後に勤められることになるであろう企業においても、大きな体質改善が求められていくことになるでしょう。

工業技術者が学んだ技術を生かして与えられた仕事をこなして行くだけでいいという時代ではなくなり、一人一人が常に創意工夫を行って新しい技術や優れた製品を創り出していかなくては生き残れない時代にな



って行くでしょう。

本校では、5年間の一貫教育課程を敷いていますので、皆さんが自らの意思で努力されれば、そういった新しい時代を生き抜いていける人達に育って行くことができる十分な時間があります。

そのためにはまず、自分が選んだ専攻分野の工学的基礎知識をしっかりと勉強しましょう。ただ暗記して単位を取ればいいという考え方ではなく、自分の頭でしっかりと考えて理解をする癖をつけることが大切です。

次に実践的な技術を身につけるように努力しましょう。その際にもただ習うだけでなく、どうすればもっとうまくいくのかということも常に考えるように努力してほしいと思います。

皆さんがそのようにして新しい時代に適応できる工学技術者に育っていく事は、他の人々のためになるばかりでなく、自分自身にとっても大切なことです。人間は一回しか生きられません。生まれてきたからには、たった一度の人生を生き活きと生きていきたいと思いませんか。新しい役に立つ何かを自分の頭脳と手で創り出す喜びは、経験した人でないとわからない位大きく、人生に張りをもたらします。皆さんがこれから的新時代に適応できる工学技術者に育っていくことは夢と希望に満ちた生き甲斐を感じながら毎日毎日を過ごしていく人達に育っていくことでもあるのです。

皆さんは今、一人前の大人に育っていく一番大事な時期にいるのです。人生を健康に送れるよう、身体もしっかり鍛えましょう。精神的に豊かな人生を送れるよう、広い教養も身につけてほしいと思います。そして、皆さんの身の回りで起こっているいろいろな暗い状況にも負けずに、人生を豊かに生き活きと暮らしていくことができるようになっていくことをを目指して、自分の意思で学び努力する「学生」として、青春時代の真っ直中のこれから約5年間を有意義に過ごされることを願って、入学式の式辞といたします。

平成9年4月9日

新入生オリエンテーション

平成9年4月16日～18日

於 阿蘇青年の家

阿蘇研修を終えて

1E 興梠 真理

2泊3日、1年生は阿蘇青年の家で研修を受けた。私はこの研修で、規則正しい生活を送ることがたいへん難しいということを、改めて実感した。食事は何時から何時まで、お風呂は何時から何時までと決められており、その決められた時間にやるべき事を終えないとできなくなってしまう、という厳しさも教えられた。時間といえば「10分前行動」。私にとって一番困難だった事は、この「10分前行動」だった。集合がかかる度に時計を見て、あせり、そして走った。先生の話をよく聞いておらず、失敗をすることも多かった。しかし、その失敗から「人の話をよく聞いていなければ、自分自身が恥ずかしい思いをする」ということを学んだ。このことを忘れず、次回からは失敗しないように注意しようと思う。

この研修で一番うれしかったことは、友達がたくさんできたことだ。お互いの名前を紹介する時、とても楽しく、そして安心できた。自由時間になると、毎回部屋へ遊びに来てくれる友達。私が何をすればよいのか、何時までに行けばよいのかわからない時、親切に教えてくれる友達。そんなみんなと出会えたことが、この研修での一番の思い出だ。同じ学科のみんなの雰囲気も、研修に来る前よりもずっと良くなった。担任の先生の貴重な体験も聞くことができ、だんだんと楽しくなってきた。

そしてこれから5年間、いや一生頑張ろうと思った事は「あいさつ」だ。あいさつがなければ、他の人は関わることができない。その事が印象強く、また先輩方からも注意された。それからはきちんとあいさつをすることができ、満足もすることができた。

阿蘇青年の家で学んだ事は、これから生きていくまでの最低限のマナーだと思う。私自身の中につめこまれたものを生かして、これから的生活を頑張っていこうと思う。



校長講話

研修を終えて

II 松田 智恵

3日間の研修を終えての感想は、とりあえず楽しかったということだ。行く前や行く途中のバスの中では、こんな感じで3日もやっていけるだろうかと思っていたが、いざ一緒に生活していくと結構楽しくて、あつという間に過ぎてしまったという感じだった。

校長先生をはじめ、教務主事や学生主事の先生方のお話は高専生としての自覚を、身をもって知ることができたように思う。確かに私は今まで高専生としての自覚が足りなかったようだ。高専に入学したという安心感だけで毎日を送っていたと思う。だからこれからは、私がこの学校のこの学科に来た大きな目標である、コンピューターを使いこなせるようになるという決心のもと、しっかり頑張っていきたいと思う。良い意味での高専生としてのプライドを持ち、努力していきたい。

また、みんなとの団結感も得ることができたと思う。班員みんなで頑張ったオリエンテーリングは、みんなで協力したからこそ、うまくいったんだと思う。いろんなポイントを探して走り回って、本当に楽しかった。オリエンテーリングだけでなく、同じ部屋でたくさんの友達と一緒に生活したこと、みんなの内面を知ることができたように思う。男子とは交流の機会が少なかったけれど、自己紹介でいろんな話を聞いて、いろんな人がいることがわかった。私のこのクラスの第一印象はすごく暗かったので、みんなそんな人かと思っていたけど、そんなことはなく楽しい人ばかりだった。とてもほっとした。

とにかく楽しい3日間だった。そして、私達を指導してくださいました先生方、先輩方に感謝している。いろんなことがあったけど、この3日間で学んだことをこれから的生活にいかして頑張っていきたい。勉強と部活動を両立させ、有意義な学生生活が送れるよう心がけたい。



オリエンテーリング

新任教職員 Q&A

●新任教職員の方々を次のQ1~4で紹介します。

Q1 本校へ来る前は

Q2 本校あるいは本校学生の印象について



機械工学科助手
高橋 将徳

A1 熊本大学大学院自然科学研究科(システム科学専攻)で、適応制御理論とその機械システムへの応用について研究していました。

A2 とにかく何事にもアクティブに取り組む学生が多く、また、学生同士の横のつながりはもちろんのこと、縦のつながりが非常に強いという印象を受けました。

A3 釣り、特に、お金のない学生時代に餌代がかからないということではじめたルアー・フライフィッシングにはまっています。

A4 今はまだ微力ですが、学生一人一人の才能と個性が充分発揮できるような環境をつくれるように努力していきたいと思っています。



庶務課人事係長
川崎 輝之

A1 九州大学庶務部人事課に勤務していました。

A2 静かで自然環境に恵まれた学校であり、学生もよく挨拶をしてくれ、好印象を受けました。

A3 以前は草野球をやっていましたが、最近はもっぱら観戦ばかりで体を動かすことがないで、機会があればと思っています。

A4 初めての高専勤務でとまどうこともありますが、1日も早く有明高専に慣れ、ご迷惑をかけることがないようがんばりたいと思います。よろしくお願ひします。



一般科講師
安部 規子

A1 県立学校の教諭として福岡の高校で英語を教えていました。

A2 自然環境に恵まれたキャンパスで、のびのびと学生生活を送っている姿にうらやましさを感じました。「草木饅頭」も大好物になりました。

A3 映画をよく觀ます。今度「イングリッシュペイシエント」を観るつもりです。それと、ヨーロッパの町を一人で歩きまわるのが大好き。弓道四段。

A4 元気と好奇心いっぱいの学生の皆さんに負けないようにパワーアップしてがんばります。



庶務課図書係長
昌子 喜信

A1 九州大学で6年間司書として勤務していました。有明高専に来る前の1年間は農学部図書室にいました。

A2 九大にいた時には仕事柄学生と接する機会が多くたのですが、大学生と比べて有明高専の学生は、素直な学生が多いようです。挨拶をする学生も多く、とても好感がもてます。

A3 アウトドアスポーツと旅行。昨年は、西表島のカヌーツーリング、屋久島の縦走、インド旅行となかなか充実していました。おかげで貯金がだいぶ減ってしまい今年は近場が中心になりそうです。

A4 学生、教職員の皆さんに親しんでもらえる図書館を目指してがんばります。どうぞよろしくお願ひします。

&



会計課施設係長
北村 章雄

A1 昭和45年北九州市戸畠区の九州工業大学に採用、昭和56年からは宗像市の福岡教育大学施設課にて文教施設に携わってきました。

A2 緑がいっぱい、自然の中で、元気がいいと感じました。

A3 スポーツ観戦(特に野球、駅伝、マラソン)自分でやるのはピンポンです。現在ダイエット中にて早歩きをやっています。

A4 とまどいの毎日です。肩に力を入れず、出来ることから一つずつ。よろしくお願ひします。



学生課教務係長
黒川 秀一

A1 昭和50年国立阿蘇青年の家に採用され、熊本大学を経て、本年4月に有明高専にきました。

A2 自然環境に恵まれた場所で、先生方の教育研究の取り組みの熱心さ、また、学生においては15才から20才まで幅広い年齢層の中で、学生に携わる仕事ができることは非常に楽しいものであります。

A3 ジョギングを主に行っていますが、プールがありますので、夏休みに入ったら毎日1km位泳ぎたいと思っております。

A4 若い学生と接するため、日々エンジョイしたいと思います。また、楽しい職場環境を目指したいので、ご指導願います。



会計課総務係主任
神代 洋子

A1 九州大学経済学部庶務課に勤務しておりました。

A2 自然環境に恵まれ、勉強や仕事に専念できると思いました。又、女子学生が多いのに驚きました。その若さが眩しい位です。

A3 読書と生け花。生け花は20年位続けていますが、4月から中断しています。

A4 会計の仕事は初めてなので、とまどっていますが、皆様にいろいろ教えていただきながらやつていきたいと思います。



会計課総務係主任
原賀 亮治

A1 熊本大学大学院自然科学研究科の会計事務を担当していました。

A2 自然環境の豊かなキャンパスの中、若者らしく伸び伸びと学生生活を送られているように感じます。それと、学内・寮内での元気のよい挨拶は、とてもさわやかで、すばらしい伝統であると思います。でも、後ろからの不意打ちは止めてください。心臓に悪いですから。

A3 娘たちと遊ぶこと(見てのとおりのマイホームパパ)

A4 本校の発展のため、いい仕事ができるようにがんばりますので、よろしくお願ひします。



会計課施設係主任
溝上 和久

A1 浜松医科大学業務部施設課に勤務していました。

A2 今迄の勤務先が大学だったので、黒い学生服の生徒に新鮮さを感じます。

A3 家でごろごろ「粗大ゴミ状態」しながらのテレビ鑑賞です。

A4 できるだけ早く学校全体の施設及び設備を把握し、維持管理にがんばりたいと思っています。

Q & A



庶務課庶務係
やすだとしろう
安田 俊郎



電気工学科事務補佐員
ひがしだみさ
東田 美佐

- A1** 福岡県春日市にある九州大学の筑紫キャンパスにいました。大学院、研究所、共同利用センター等が集まっている所です。
- A2** 高専と言うと男子校のようなイメージがあったのですが、女子学生も多く、普通の高校と変わらないという感じです。
- A3** サッカー。やる体力は無くしてしまったようなので、観るばかりです。
- A4** 今まで会計の仕事しかした事がないので、教えてもらう事も多くあると思いますが、楽しくやって行きたいと思っています。



◆地域産業界との懇談会を開催

有明高専では、機械、電気、電子情報、物質、建築という幅広い分野での教育・研究が行われています。最近、特に研究についても、教育のためだけではなく、その蓄積された技術や研究設備を地域産業の発展のために役立てることが求められてきました。

そこで、地域の企業の方々を招待して、有明高専の研究内容や設備を紹介し、共同研究の進め方などについての意見を交換するために、懇談会が開催されました。

この懇談会は、地域を分けて2回開催され、まず、2月6日(木)に、大牟田市役所、大牟田商工会議所、大牟田地域の企業30社から約50名の参加を得ました。さらに、3月14日(金)には、荒尾市を中心に熊本県北部地域から19社、約20名の参加がありました。

懇談会では、校内の設備見学や技術開発についての活発な意見交換が行われました。今後、有明高専が「地域に開かれた高専」としてますます発展していくことが期待されます。



パルスパワー実験装置を見学の参加者

送 辞 学生会会長 井上 和哉

寒さに震える季節も終わり、梅の花もそろそろ桜の花に咲き変わろうとしています。この暖かさに後押しされるように、有明高専という季節から新しい季節へと移り変わろうとしている卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

いまから4年前、私たちがまだ本校に入学したばかりの頃、寮や学校で見かける先輩方は、随分と大人に見えたものでした。それ以来、私たちはずっと先輩方の背中を見てきました。高専大会に向けて練習を積み、試合に敗れ、悔し涙を流した先輩方。高専祭の準備で遅くまで残り着々と計画を練っていた先輩方。体育祭で声が出なくなるまで応援していた先輩方。そのひたむきな姿一つが私たちに感動を与えてくれました。それと一緒に次は私たちの番だという責任感をしっかりと感じました。この責任の重さに負けないように、そしてずっと見続けてきた先輩方の背中に追いつけるように頑張ります。

1年生から5年生までという、他の学校と違ったこの「高専」という環境は、卒業生の皆さんにはどう感じられたでしょうか。この学校で出会った先生方や友人達は高専生活にどんな影響を与えたでしょうか。私たちにとって先輩方と出会えたことは大きなプラスになりました。自分自身を大きく成長させることができました。しかし、常に私たちの目標であった先輩方に追いつくには、もっともっと自分を成長させる必要があります。そして、先輩方に代わって私たちが、この有明高専をしっかりと支えていきます。

今、先輩方は一つのゴールであり、スタートでもある位置に立たれたわけです。就職して社会に出られる方、大学へ進学される方、今日という日を境にして様々な道へ進まれることになります。それは、どこまでも続く道であり、たくさんの壁があると思います。その道の途中で立ち止まつたら、この学校で出会った友人、ご指導された先生方、そして、あなた方を尊敬し、慕った私たちがいたことを思い出してください。私たち一同、この有明高専から応援しています。いつの日か、全ての感謝を込めて、送辞いたします。

「ありがとうございました。」



答 辞 5C 古高 暁



木々の緑、日ごとに色めく季節と相成り、本日私たち179名は晴れて卒業式を迎えることができました。校長先生の告辞、文部大臣のご祝辞や後輩の温かいお祝いと激励のお言葉を頂き、別れの寂しさを味わうとともに、こみ上げる喜びを感じております。

思い起こせばこの5年間、体育祭、高専祭、研修旅行、卒業研究など、その一つ一つの行事や出来事にこぼれんばかりの思い出が詰まっており今はただ懐かしく思い出されてなりません。

自由闊達な雰囲気の中、日々充実した学生生活を送ることができたここ萩尾台での5年間は素晴らしい恩師と出会い、そして生涯の友を得ることができ、青春を飾るにふさわしい一生の財産となったことと確信しております。私たちは今、自らの夢を追い、さらなる飛躍を求め、それぞれの道を歩みます。決して近道はせず、結果もさることながら、努力の過程を尊重し自らの選んだ道に後悔の足跡を残さず、諸先生方や社会の期待に答える覚悟であります。

今までの私たちは、学校という守られた空間の中で多くの人たちによって勇気づけられ、そして励まされてきました。しかし、所詮人間は、自ら立ち上がり、様々な困難を乗り越えることで鍛錬していく生き物であります。ここ有明高専で教わった様々なことは社会に出たとき必ず役立つことと確信しております。

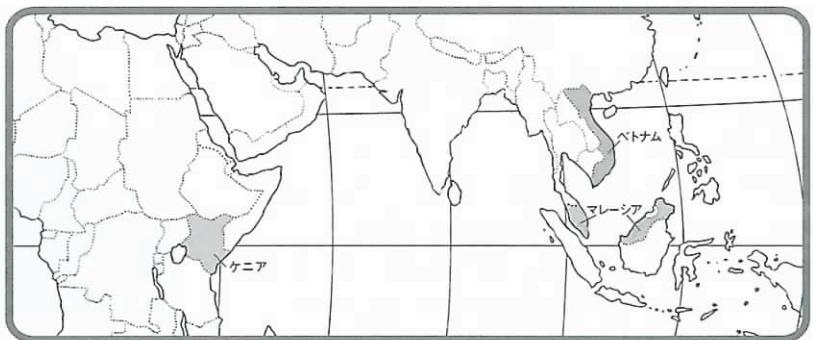
今私たちは期待と不安の交錯する中、巣立とうとしていますが、人にはそれぞれの生き方があり、その時々によって自らの意思で決断しなければならないときがあることを、ひしひしと実感しております。

来るべく21世紀は先が見えなくとも私たちの時代です。本校で鍛えた体と逞しい精神力で切り開いていく覚悟であります。どうか温かく見守ってください。最後に私たちの歩みを助け、ご指導いただいた校長先生を始め、教職員の皆様や、私たちを慕い支えてくれた在校生の皆さんに感謝の意を述べ、答辞といたします。



留学生紹介

今春、新たに、4名の留学生がやってきました。
母国の紹介や日本の印象について述べてもらいました。



マレーシア

3M オマール・ビン・マッド・ノー

私の国はマレーシアで東南アジアにあり、北と南の方にはタイとシンガポールがあります。赤道に近いから、熱帯気候に影響され一年中蒸し暑いです。一年中の雨量は大体2030ミリですが、海の周りはもっと多いです。

日本の4分の3の面積のマレーシアは2100万の人口を持っています。主な民族構成はマレー系、中国系、インド系です。マレーシアは14州に分けられています。首都はクアラルンプールです。

イギリスの植民地であったマレーシアは1957年8月31日に独立してからどんどん発達が続いています。

私は日本に着いたばかりなのでこっちのことははっきり知らないけど一番印象を持ってるのは輸送制度です。母国と比べてかなり違います。日本で一番使っている乗り物は電車です。ラッシュアワーの時、電車の中は通勤する人でいっぱいですが会社に間に合います。マレーシアと違って車で通勤する人は混雑の時、動かない車の中で待っていて会社に間に合わないことが多いです。

大牟田市と荒尾市では自転車を使っている人が多い。私の出身のクアラルンプールには珍しいことです。自転車は便利だけじゃなくて体の血液の循環にはとってもいいです。

私は日本にいる間に宗教を守って日本の習慣を身につけたいと思います。尚、日本人みたいなマレーシア人になるかもしれません。



ベトナム

3I チュオン・リン・キュー

ベトナムはアジアの中で、東南の方にあります。国土はS形と言われています。カンボジアとラオスと中国は隣の国です。2000年という長い歴史の中で度々戦争がありました。19世紀から20世紀前半までフランスの植民地で、その後アメリカとの戦争が20年ぐらい続きました。戦後、国の経済が10年ぐらい混乱しました。1986年に経済対策を立て、義務教育の政策をとったので、経済が回復し始めました。

長い間外国との戦争は続いたが、国の文化と伝統はずっと受け継がれてきました。例えば、母国語としてベトナム語を使い、ローマ字で書くことや陰暦の1月1日(1月の末月ごろ)に正月としていろいろな風習があります。一年中で正月の前後2週間ぐらいが一番楽しい時期です。そして、正月が終わると春が始まります。また、北方と南方は季節が違います。北方では四季があり、夏は蒸し暑く、36℃ぐらいで、冬は10℃ぐらいまで気温が下がります。しかし、南方は雨季と乾季に分かれています。一年中気温が28℃～30℃ぐらい暑いです。熱帯にある国なので自然が多く一年中植物が青青と茂っています。

私は自然が好きなので、有明高専に来て、いい所と印象を受けました。静かな所なので勉強をするにはよい所だと思います。大牟田市と荒尾市の人々は親切で、特に学校、寮の先生方、クラスの友達、寮の友達は私のことをいろいろ手伝ってくれるので大変感謝しています。しかしそまだわからないことも多いので、教えてもらえるとうれしいです。



マレーシア

3A ハルヘザト・ビン・アブドル・ワハブ

マレーシアは北緯7度の地点、東南アジアの中心に位置する熱帯の楽園です。マレー半島とボルネオ島の2つの州、すなわちサバ州とサラワク州とで構成されており、総面積は329,758平方kmです。気候は年間を通して高温ですが、高原のリゾートでは気温が低く、涼しくなっています。一日の気温は21℃から最高32℃程度で、年間の平均降雨量は2千から2千5百ミリです。一年中太陽の光に恵まれ、一年を通して高温多湿ですが、日本の夏と比べて湿度が低く、過ごしやすい。

マレーシアは約2千万人の人口から成っている複合民族国家です。マレー系、中国系、インド系の3つが人口のほとんどを占めていますが、サバ州とサラワク州にも土着の多様な民族が住んでいます。国語はマレーシア語ですが、英語も広く使われています。国教はイスラム教ですが、仏教、ヒンズー教、キリスト教等他宗教も信仰の自由が保証されています。マレーシアはグリニッジ標準時より8時間進んでいます。日本との時差は1時間で、日本が正午の時、マレーシアでは午前11時です。

私は日本のことたくさんまだ分からないです。最初、私は日本が緑の国ではなく、工場ばかりと思っていた。甘い考えでした。大牟田はいい所あるし、人々がたくさんいます。大牟田ではたくさん仕事ができます。だから大牟田の中で生活ができます。大牟田は便利な町です。



ケニア

3A チェルヨット・ウィリー・チェシレ

日本に来てからいろいろなことに驚かされました。それを書きたいと思う。

最初は日本に来ているとき、飛行機の中で東京を見た。そのとき朝の4時ごろ、たくさんの灯影を見て、星が全部地球にあるように見えた。すばらしいことだった。次の日、駅へ行って大勢の人を見た。その人たちがみんな電車を待っていた。電車が着いてドアが開いたかと思うと電車から人が飛び出して、待っていた人にぶつかって駅から走りました。待っていた人も同じように電車に乗り込んだ。電車がもう1人も入らないほど込んだ。それでも2、3人がいらっしゃるくらい電車に乗った。私は本当にびっくりした。日本人は本当に忙しい人だと思った。

何か月後、深夜、渋谷へ遊びに行った。その時町が汚くなってしまった。おおぜいの人が酔つて暴れていた。そのなかにはきれいな洋服を着ていた女性もいた。道には何人かスーツを着た男の人が寝ていた。私は信じられなかった。それは期待はずれだった。

私は東京にいた時、緑の環境はあまり見なかった。日本はとても見悪いと思っていたがここに来できれいな環境を見て、ケニアのことも思い出してとてもうれしくなった。

びっくりしたものを全部書いたら切りがないのでここでおわりとします。みんな元気で。

第6回高専フォーラムが有明高専で開催される

1997年3月15日(土)、有明高専において第6回高専フォーラムが日本化学会九州支部主催、有明高専共催のもとで開催されました。本フォーラムは九州内高専の化学系学科と地元企業との交流を目的として開催されています。今回はテーマを"地元企業と高専の絆を強めるために"とし、本校から三浦博史教授と川瀬良一助教授、三井東圧化学(株)岡崎光樹氏および電気化学(株)磯崎啓氏が講演を行いました。また、討論会も行われ、特に高専における高等技術教育について積極的な意見・提言がありました。なお、参加された団体は以下のとおりでした。

三井東圧化学(株)、電気化学工業(株)、三池火力発電(株)、三井鉱山化成(株)、三光(株)、杉野押花研究所、福岡大学、久留米高専、北九州高専、佐世保高専、八代高専、都城高専、有明高専



卒業生の進路

機械工学科

相生精機(株)
旭精機工業(株)
(株)九州三田技術コンサルタンツ
(株)テクモ
(株)バスター
(株)メタリクッスジャパン
(株)安川ロジステック
(株)ヤマサキ
昭和アルミニウム缶(株)
第一精工(株)
大日精化工業(株)
竹下産業(株)
トステム(株)
西日本プラント工業(株)
富士通システムコンストラクション(株)
三田工業(株)
三井金属鉱業(株)
三菱重工業(株)広島製作所
安川エンジニアリング(株)
(有)智設計
PIONEER TECHNOLOGY
MALAYSIA SDN. BHD.

九州工業大学
熊本大学
佐賀大学
豊橋技術科学大学
長岡技術科学大学
長崎大学

電気工学科

大阪メディアポート(株)
(株)アドバンテスト
(株)NTTファシリティーズ
(株)ケンコントローズ
(株)志摩テック
(株)日鉄エレックス
(株)フランソワ
(株)メイテック
沢井製薬(株)
ソニー長崎(株)

太平工業(株)

東芝電機サービス(株)

トステム(株)

日本オーチスエレベータ(株)

日本電気エンジニアリング(株)

日本電気計器検定所

日本電気フィールドサービス(株)

日本電産(株)

富士通システムコンストラクション(株)

明電エンジニアリング(株)

安川エンジニアリング(株)

安川プラントエンジニアリング(株)

ヤマハピアノテクニカルアカデミー

九州工業大学

熊本大学

豊橋技術科学大学

長岡技術科学大学

八代高専専攻科

久留米高等技術専門学校

電子情報工学科

インターンシップ・プログラムス

(株)旭精機

(株)オートメーション・テクノロジー

(株)西部電業社

(株)ソビア

(株)デジタルツーカー九州

(株)日立メディコ

(株)パース

(株)プラネットシステムズ

(株)三井ハイテック

(株)安川ロジステック

九州電機製造(株)

京セラ(株)

熊本ゼロックス(株)

コナミ(株)

西肥情報サービス(株)

サンテック(株)

精巧印刷(株)

翼システム(株)

東亜医用電子(株)

東芝エレベーターテクノス(株)

東レ(株)

西田商運(株)

日本電信電話(株)

平井精密工業(株)

福博綜合印刷(株)

富士電機テクノエンジニアリング(株)

リコーエクノネット(株)

大分大学

福岡市役所

工業工学科

有明商事(株)

(株)旭精機

(株)キューサン

(株)青陽社

(株)巴商会

(株)同仁化学研究所

(株)日本触媒

共栄樹脂(株)

黒肥地工業(株)

光栄精工(株)

ソニー瑞浪(株)

大日本インキ化学工業(株)

高森興産(株)

TDCソフトウェアエンジニアリング(株)

平和総合コンサルタント(株)

東レ(株)

トステム(株)

南九コーポレーション

日東電工(株)

不二鉱材(株)

富士紡績(株)

大分大学

熊本大学

長崎大学

千葉大学

建築学科

大森設計室

(株)穴吹工務店

(株)新井組

(株)NTTファシリティーズ

(株)大島組

(株)柿原組

(株)片山鉄骨

(株)柄谷工務店

九州工業大学

熊本大学

長崎大学

卒業生の表彰

成績優秀者

M	青柳 賢治	E	黒岩 剛	I	林田 隆則	C	伸山 和海	A	古賀 里香
---	-------	---	------	---	-------	---	-------	---	-------

5年間皆勤者

M	加來 明徳		山村 浩之		山下 勝次		吉開 信宏		古賀 泰司
	中村 秀幸	I	内山 泰治	C	北野 博士	A	相川菜津実		西田 智美

5年間精勤者

M	磯邊 浩二		黒岩 �剛		道下 貴子		清田 康広	A	有田 努
	中野 智晴		齊藤 義之		武藤 直美		坂口 由美		沖 宏子
	平川 智範		清水 美彦		森 優子		霍見 智子		熊谷 彰浩
	平川 誠		田中 秀典		林田 隆則		中島 健一		福田光江子
	三小田 健治		山本 智之	C	池田 稔範		伸山 和海		濱口光一郎
E	江頭 義也	I	真弓 敬志		菊次 篤志		森 恭子		

1年間皆勤者(5年生)

M	加來 明徳		山村 浩之	I	内山 泰治	C	北野 博士		大坪 寛
	江田 秀次	E	石橋 英紀		三小田 剛		坂口 美代子		古賀 里香
	中村 秀幸		江頭 義也		武藤 直美		吉開 信宏		古賀 泰司
	花見健太郎		清水 美彦		山下 勝次	A	相川菜津美		西田 智美

1年間精勤者(5年生)

M	磯邊 浩二		山本 智之		清田 康広		森 恭子		濱口光一郎
	三小田 健治	I	森 優子		坂口 由美		米田 彩子		
	吉田 康男	C	浦田 千愛		中島 健一	A	有田 努		
E	雜賀大治郎		菊次 篤志		仲山 和海		福田光江子		

電気工学科資格試験合格者

平成8年度第2回工事担任者試験合格者

デジタル2種

合格者	科目合格者
4E 伊藤 豪章	

アナログ2種

合格者	科目合格者
	5E 武藤 幹子
	5E 野口洋一郎

アナログ3種

合格者	科目合格者

<tbl_r cells="2" ix="4" maxcspan="1"

学生表彰

■1年間皆勤者 (1~4年生・128名)

年科	氏名	年科	氏名								
1M	阿比留雅貴	1A	磯田 大輔	2I	西田 智美	3M	福原 進也	3A	永井 一也	4M	山中 雅和
	大澤 浩之		井寺 孝一		橋本 玲		村上 仁彦		光田 典雅		新町 亜矢
	金井 武史		上原留美子		山田 佳代		片山美樹雄		石井 衛		西山 大輔
	狩野 佑介		加藤 聰		曾我部寛子		古賀 理一		坂本 武司		岡部 陽子
	河野 恵郷		倉富 優		田中 直美		杉山香奈子		猿渡 直人		堀 隆之
	中村 圭吾		古賀 大吾		田中 紀子		松岡 浩美		長谷 学		矢野 敦之
	樋木 英司		小宮 志保		田中友一朗		宮崎 尊秀		野口 宜伸		アイザック
	藤嶋 直之		世戸島洋一		中尾明日美		荒木真由美		森野 誠		猿渡 優一
	邊春 聰男		田中まゆみ		畑 香織		川上 真人		山本 健太		神保 將志
	木村 彰宏		檀上 容康		村田 直高		岸本 大志		小柳 雅隆		長野 善行
1E	古賀 剛	2M	西川 弥生	3E	安田 佳代	4E	木山 敦	4I	鈴木 祐貴	4A	久富 弘毅
	古賀 裕規		西村 博志		黒岩 雄喜		下川 久美		何川 敬介		吉永 尚平
	高井 賢		野田 義朗		井上 博文		田代 智也		橋口 悟		安藤 由美
	高木 昭徳		平川 理江		遠藤 泰史		中尾 友子		渡邊 貞治		今井 俊介
	田川 武史		藤木 和幸		古園井洋治		春口 渉		石橋 和子		柏原 大人
	田嶋 貢		松尾 隆司		近藤 大蔵		松尾 紀子		高口 友美		前原 伸一
	筒井 仁紀		山崎 博之		田中 克史		森山 智代		野口 由紀		入江 智亮
	中山 昭仁		奥村 孝太		田中 義和		石橋 和也		濱田 志穂美		西崎 直嗣
	森田 豊美		清富 啓介		長 慶史		岩田 篤資		林 豊洋		
	山下 努		古賀あかね		堤 慎史		齊藤伸太郎		吉田 誠		
1C	吉田 正昭	3C	田中 正輝	4A	品川 健介	4C	齊藤伸太郎	4A	徳永 純一	4A	藤村 佳代
	石橋 賢一		徳永 和明								

■1年間精勤者 (1~4年生・173名)

年科	氏名	年科	氏名	年科	氏名	年科	氏名	年科	氏名	年科	氏名
1M	今村 智之	1A	岩崎 理沙	2A	蒲池 雅樹	3I	江崎 愛	4E	藤末 晃	4I	松野 正哉
	江口 和樹		江崎 聖和		澤村 啓輔		江見 歩		芳川孝太郎		江見 勇作
	大津山 賢一		坂本 直樹		莊 昌志		鐘ヶ江国子		市川 英樹		倉富 和之
	笠原 孝高		田中 純		田中 徹		清原 友美		一丸 瞳		武藤 幹子
	久保山 正朗		野田 隆		松岡健太郎		久保田真次		井村 征智		吉田 猛
	倉橋 義明		野田真知子		武藤 往也		窪田 隆介		猿渡 友美		石橋 修
	近藤 紀幸		畠中 裕美		今田 大五		坂上 美穂		飛永 圭介		磯田 恵子
	佐田 崇烈		光安 克洋		嶋田 泰志		田島真一朗		上園 誓子		浦 理紗
	篠崎 俊史		森 美智子		林 剛志		田中 宏明		梅木 淳二		黒肥地なおみ
	瀬戸 俊史		井口美智子		弘島 歩		藤田 智子		式守 幸子		古賀江里子
1E	長尾 一也	2C	笠間 由里	3C	松本 準也	4C	前岡いづみ	4A	中嶋 咲子	4A	西原 雄一
	蓑田 智史		片山 智佳		目野 宗利		松永 悟		永田 和美		内村 香
	荒尾 泰玄		川内美奈子		石井 葉子		松村めぐみ		平川 裕子		國崎 愛
	河野 清隆		北原 香理		後藤 学		森 優希		峰松 薫		笠井ア紀子
	小池 哲		古賀 啓太		境 沙織		森木 史子		武藤 絵美		本田 文
	古賀 彰欣		是枝 亜美		杉尾 聰美		龍頭 伸秀		森 由紀		森 舞
	古賀 和仁		阪井 勢		田中 陽一		猿渡 健治		吉原 伸一		吉村有希子
	坂本 政徳		境 純子		永江 健児		高畠 康弘		リズアン		倉重 美香
	杉野 和也		田川 裕美		前田 誠		椿 康弘		坂口 景子		
	手嶋 一志		中原 紀之		松本珠美江		服部 聰		高鍋 敦子		
1C	寺井 達哉	3C	野田 佳辰	4M	實渕 秀昭	4A	日吉 正宜	4M	山下紗喜子	4A	
	中田 耕二		堀川 真希		江崎奈都子		松本 隆太		山中 和哉		
	長瀬 大介		武藤 恵		川上 雅智		坂山 芳憲		吉田 和弘		
	久岡 貞弘		山下 花子		北原 里美		下川 心		井上 勝治		
	前田 昌孝		北原 麻紀		田中 慎也		庄村 純		鹿児島弘規		
	山内絵美子		小宮 智華		中本 貴大		杉本 淳		川上 了		
	米満 卓哉		柴山 豊		福山 美輪		隅田 順子		杉野 隆廣		
	荒木 大器		野口 智恵		古川 浩章		高田 和樹		田中健太郎		
	板橋 明智		松尾 蘭		松藤誉梨子		東 朋幸		深川純一郎		
	犬東 伸樹		大淵 晃裕		安谷亞希子		平石 智嗣		馬田 雄一		
II	今村 浩一	2M	緒方 康悦				松井 洋一				

岱明寮だより

平成9年度当初に行われた岱明寮における各種行事について報告します。

4月6日、7日 寮生指導者研修：寄宿舎運営委員と寮生役員30名で大牟田ハイツにおいて実施され、遵守事項の確認、指導者としての心構えや、役員からの要望、主事室からの要望など、熱心な討議が行われた。

4月9日 入寮オリエンテーション：今年も新1年男子49名、女子12名、編入生5名、女子1名を含む留学生4名（ベトナム1、マレーシア2、ケニヤ1）、計70名の新入寮生を迎えた。遵守事項の説明や寮生活について心構えなどの注意があった。

4月14日 新入寮生歓迎夕食会：校長先生はじめ多くの教職員に出席していただき、盛大に行われた。

4月19日 歓迎球技大会：新入寮生の歓迎と寮生間の親睦を深めるために、出身地区別にチームを編成し、男子はソフトボール、バーレーボール、卓球、女子はビーチバーレーボールの競技を行なった

Don't Worry, No Problem!

「さすがはジャイナ教の研究者。苦行にも一番いい時期と場所を選んでの訪問ですね。」

3月末からアーメダバードに滞在することを伝えると、インド研究の仲間たちは口をそろえた。そう、グジャラート州はインド国内でも有名な暑い土地なのです。特に4月から7月の雨期が始まるまでの酷暑期は、日陰でも48度なんて日もある。蛇口からは手で触れられないほどの熱湯が出てきます。そんな時、思わず頭に浮かぶのがこの言葉。

Don't worry, no problem!

「心配するな、問題ない。」

インドでの生活で何度も驚き、あきれ、励まされた言葉です。マラリアで病院に行ったら医者が言う、"Don't worry, no problem"。おつりが足りないよ、店のオヤジ。"No problem"（おいおい）。お客様、代金少ないよ。"No problem!"（こっちだって）。こんな言葉から始まる延々たる交渉や議論が必要な国。逆に言えば、交渉次第でどうにでも。それがインドのおもしろさであり、苦労もありました。

さて、まずはアーメダバードの紹介から、と書き出したわけですが、とてもこのページには納まらない分量となりました。以下の場所にある私のホームページに置いてありますので、興味のある方はそちらをご参照下さい。これには今回の在外研修の報告その他の情報も順次追加し、写真を含め充実させていきます。

<http://tsubaki.ge.ariake-nct.ac.jp/guccie/>

それでは承前。滞在先のグジャラート大学附属LDインド学研究所は、6年前に約1年を過ごした場所。今回も構内に建つゲストハウス2階の以前と同じ部屋を、10ヵ月間の宿舎として提供してくれました。この研究所は、特にジャイナ教の研究施設として設立され、附属の博物館の収蔵品を始め、書庫にはジャイナ教関係の出版物はもとより、紙や貝葉と呼ばれるヤシの葉を使った手書き写本が1万本以上も保存されており、世界的規模で研究に利用されている施設です。



ヒンドゥー教の結婚式

一般科 山口 英一

今回の滞在中には、国際サンスクリット学会がインドで開催されたことを除いても、この研究所を訪れた各国の研究者が多く、彼ら・彼女らと議論を重ね、情報を交換したことは大きな収穫となりました。

ちょっと詳しく述べますと、ジャイナ教を対象とする社会学的・人類学的研究



は、1980年代半ばから欧米で急速に盛んになっています。特にインドの元宗主国であるイギリスと、グジャラート州から多数のジャイナ教徒が移住している北アメリカでは、現地でのジャイナ教徒コミュニティをも対象とした活発な研究活動が進められています。そんなフィールド調査を行っている研究者との議論は、私が扱う哲学的文献の研究を宗教イデオロギーの枠組みとして再確認させると同時に、フィールド調査ではカバーできない領域としての古典文献学の重要性を明らかにしてくれました。

しかし、そんな研究者と共に多数のジャイナ教聖地や寺院、あるいは信者のお宅を訪問したときには、"No problem!"を連発しながらの珍道中を楽しめました。

最後に少しインドの現状を。今やインドは、白黒テレビの家でも衛星放送・ケーブルテレビで30チャンネルは当たり前の時代です。大都市にはインターネット・カフェだってあります。私も今回は電子メールにずいぶんお世話になりました。豊富なマンパワーで、あと10年後には経済的にもアジアの大國に成長しているでしょう。もはや日本は "Don't worry, no problem" なんて言っていられませんよ。

"Boys and girls, be serious!"



LDインド学研究所にて